



小牧市民病院 緩和ケア科医長
わたなべ ひろあき
渡邊 紘章

市民病院の「緩和ケア」

～あなたらしく
生きるための支援～



「緩和ケア」とは？

緩和ケアとは、がんなどの病気を抱える患者さんやご家族の、体のつらさや気持ちのつらさ、生活面でのつらさといった、さまざまなつらさ（苦痛）をやらわらげて、「自分らしく生活していくこと」を支援するために、医師、看護師、薬剤師、心理士、ソーシャルワーカー、栄養士、ボランティアなど多くのスタッフが協力して行う取り組みです。

「緩和ケア」はいつ受けるのか？

緩和ケアの基本は、少しでも適切に療養生活を過ごしていただきたいという「患者さんやご家族への思いやり」です。そのような基本的な緩和ケアは、病院内のすべてのスタッフにより診断時、手術前後、抗がん剤治療中であっても時期を問わず提供されます。

小牧市民病院の専門的緩和ケア診療体制と緩和ケア外来・緩和ケアチーム・緩和ケア病棟

軽減が難しいつらさに対しては、緩和ケアに関する専門的知識と経験を有したスタッフ（緩和ケア科医師、がん性疼痛看護認定看護師、薬剤師、臨床心理士）による支援も行っています。

これまで、平成21年9月より、通院治療中の方を対象とした緩和ケア外来や入院治療中の方を対象とした緩和ケアチーム活動を行って

きました。今回、入院での緩和ケアを必要とする患者さんのための専門施設として、4月から北病棟に隣接する敷地に新設された緩和ケア病棟の運用が開始されます（平成24年3月現在、県内で16カ所目、地域がん診療連携拠点病院では5カ所目）。

緩和ケア病棟とは？

緩和ケア病棟は、緩和ケア科医師が主治医となり、看護師や心理士など多職種で協働し、つらさを和らげるための緩和ケアを積極的に行い「その人らしさ」を保ちながら生活していただけるように支援する専門病棟です。



▲新設された緩和ケア病棟

全室個室の14部屋からなり、室内環境は、体がつらい状況であっても過ごしやすいように洗面やトイレの位置、照明なども極力配慮されています。

病棟の共有設備としては、病室の外でも家族や友人との面会、食事ができるように、デイルームが設

けられており、ここでは病棟スタッフやボランティアと共に季節の行事を楽しむこともできます。またご家族が患者さんの食事をつくるためのキッチンや、幼いお子さん連れでも来院しやすいようにキッズルームが併設され、大切な時間を有意義に過ごしていただけるようにさまざまな工夫がなされています。

緩和ケア病棟の役割

これまで「緩和ケア病棟」とほぼ同義である「ホスピス」は、がんなどで完治の難しい状態の患者さんが、最後まで自分らしく過ごすための「終の棲家」としての役割を果たしてきました。緩和ケア病棟では、この役割に加えて、少しでも早くつらさを軽減し、もう一度自宅で過ごす時間を作り出すことを重要な柱と考え、緩和ケアを提供していきます。

また市内における緩和ケアの中心施設として、地域の医療機関と連携し、病院外での緩和ケア提供のための支援や地域の医療従事者の緩和ケアに関する知識向上のための勉強会の開催、市民を対象とした緩和ケア普及への取り組みも積極的に行っています。今後、市民の皆さんのご理解、ご協力よろしく願います。

問合せ 市民病院（☎76-41